「教育こそ貧困に立 ち向かう最大の武 器」

ペルーのカニェテ地域支援に 携わるイサベルの雑誌 「Mundo Cristiano」2004年1 月号の取材に応え、自らと2 験を記言した。「私は夫の子と 験から22歳までの13人のようと 流した。の手にないます。 の手伝いをしています。 まず、カニェテについて少し話したいと思います。貧困にあえぎ、必要最低限のものすら持たない人々が、人口の7割を超えます。農業に従事する婦人たちは我慢強く、その多くは読み書きができません。

毎日、午前中は家事だけでなく、家 政婦として料理や掃除をこなしま す。午後は、子供たちと明日の仕事 の段取りをします。子供一人一人が 家の仕事を分担しています。とても 夫婦だけでは家の仕事をやりくりで きませんからね。

聖ホセマリアとの出会い

「コンドライ」女性支援センターで見たドキュメント映画を通して聖ホセマリアを知りました。私が19歳の時です。センターに通い始めて、聖ホセマリアが教えていた「仕事を聖化すること」を聞きました。しばらくすると、神について、聖母マリアについて話してくれました。さら

に、毎日曜日ごミサに行くことの大切さを習いました。私はカトリック信者で、度々ミサに参加していましたが、いつもではありませんでした。

人々を支援すること、自分自身を与 えること。そして、家庭内を常にき ちんと整理整頓しておくことを習い ました。この聖人は「清貧と不潔は 同じことではない」と教えていまし た。家は床がなく地面で、かまども 土を練って作ったものです。これを きれいにする決心を立てました。毎 日、土間を掃いて、水を撒きます。 そうすると埃が舞い上がらず、清潔 です。あの映画で聞いた「主婦の什 事は、聖母マリアが為さった仕事と 同じです」という言葉が心に残りま した。それ以来、自分もマリア様と 同じようにしようと努力していま す。

また、夫に対しても優しい態度で接し、家でもきちんとした身なりでいるように励まされました。使っていない物があれば、執着しないで、本当に必要な人に譲ることも教わりました。

貧困に立ち向かう

カニェテは経済援助を必要としてい ます。ある日、私は子供たちに言い ました。「今日は食事を抜きましょ う。食べるものが何もないか ら・・・ | 。一人の息子がそれを友 達に話して、知れてしまいました。 早速、その母親が2キロのお米を差 し入れてくれました。大変に驚きま した。そして、感謝しました。聖ホ セマリアの教えのおかげで、私たち の間に連帯の精神が育っていきまし た。たとえば、病人を抱えながら治 療を受けさせるお金がない家庭があ れば、村中を歩いて回ってカンパを 募って助けています。また、不要に

なった服があれば、洗濯して、修繕して、必要な人に差し入れています。

家庭、家族を大切にすること。また、子供は重荷ではなく、神の祝福であり、私と共にいてくださるという神の信頼の表れだと学びました。私は、神の信頼に応えたいと思います。だから、けっして人工的な避妊行為をしません。13人の子供を授かることは、けっして易しいことではないでしょう。

最初に述べたように、私は地域支援に携わるメンバーです。各自しましたを支援しまったとを支援しまったとを支援しまり、一人に、なるようになるようになるようになるないであるようになるないであるように、表縫、料理などとを付けるように、裁縫、無理などを付けるように、表えいとを

軽視しないように、あわせて精神面のクラスも実施しています。

最初から、貧困に立ち向かう最大の 武器は教育だと学びました。私の村 では、実際、そのように進んでいま す。「コンドレイ」支援センターで 学んだ人々が、今度は人々に教える ようになってきました。こうして、 志を伝えていくのです。

聖ホセマリアが、「社会のあらゆる 活動の頂点にキリストを置かなければならない」と言うのを聞いて、置いて、 さか自分の活動にもキリストを置いを置いた。 とは想像もしませんでした。 し、キリストは私たちの生活の主なり、家庭の主、村の主、そリストは あり、家庭の主です。 たちの存在自体の主です。 はすべてを治める王なのです。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/jiao-yu-kosopin-kun-nili-chixiang-kauzui-danowu-qi/ (2025/11/21)